

インターバンクの声（2017年5月19日）

前日、ニューヨーク市場ではドル円がトランプ米政権をめぐる先行き不安から1円40銭ほどドル売りが進み、昨夜もロンドン市場の朝から1円ほどのドル売りとなったが、どうにか110円割れは回避した。

今週前半のドル円は113円台後半で取引されており、わずか2、3日で3円50銭ほど急速にドル売りが進んだことへの反動に助けられた部分もあったかも知れない。

もっともドルが下げ止まっていたところに5月の米フィラデルフィア連銀景況指数の大幅上昇と新規失業保険申請件数が減少する発表があったこともドルのサポートになった。

何よりも序盤続落するかと思われたニューヨーク株が上昇に転じ、米10年債利回りが10ベーシス超上昇したことがドルが111円台まで買い戻される大きな要因となった。

ただ、トランプ大統領をめぐるロシア疑惑などへの捜査は、特別検察官にモラー元連邦捜査局(FBI)が任命されたばかりで始まってもおらず、疑惑解明にはしばらく時間が掛りそうだ。

株価や金利の変化、それに経済指標結果に神経質に反応する市場が続くと思われるが、どちらかと言えばドルの上値が重い状態が続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。